

## 基礎講座 31.「利権トリオー厚労省・医者、製薬会社」

まず、「船瀬俊介メルマガ ホット・ジャーナル」を引用させていただきます。

### ●“殺人”医療に墮落した現代医療

医療が大崩壊しています。

現代医療は、もはや“医療”とはいえません。医療とは、人を活かすべきものです。つまり、活人医療であるべきなのです。しかし、現実には“殺人”医療となっています。こういふと、まず医療関係の方が怒るでしょう。いや、激怒するかもしれません。でも、医療関係の方に、まっこうからお尋ねしたい。

あなたがたが、日々、行っているのは治療ですか？

治療とは、患者の病気を治す療法という意味です。しかし、現実には、「治す」どころかひどくしています。ときには、殺しています。それは、療法ではなく「処置」なのです。病院に行って、部屋の入口を見てごらんください。

「治療室」と書いていますか？

それは、「処置室」と書いているはずですよ。医療関係者は、自分たちが患者に、行っている行為は、「治療」ではなく、単なる「処置」であることを、とくに知っているのです。

### ●自然治癒力をまったく教えない医学狂育

現代医療が崩壊するのも当然です。約 200 年前に始まった近代医学から間違っていたのです。古代ギリシアの医聖ヒポクラテスは「人間は生まれながらに

体内に 100 人の名医をもっている」といいました。この 100 人の名医とは、自然治癒力のことです。

つまり、人間だけではなく生命体にはすべて自らの身体を治す力が備わっているのです。あらゆる生命は、自らを「正常な状態」に近付ける能力を備えています。これをホメオスタシス（生体恒常性維持機能）と呼びます。

単細胞から多細胞の高等動物まで、すべての生命体に、この機能は備わっています。ところが、なんと近代医学では、このホメオスタシスを、まったく教えません。それどころか自然治癒力の存在すら、学生に教えないのです。だから医者、この生命の根本原理すら知らない。

生命の真理にまったく無知な連中が、患者の生命をあずかっている。“かれら”に、病気が治せるわけがありません。そして近代医療を支配してきた薬物療法は、この自然治癒力を殺ぐ作用しかないのです。これが私が現代医療を“殺人医療”と断定する根拠、理由です。

大学医学部等の医学教育では、この自然治癒力を教える講座は 1 時間もありません。私は、その理由を自然医学界の重鎮、森下敬一博士（国際自然医学会、会長）にたずねました。森下博士は、現代医学と決別して薬を使わない自然医学では、国際的な指導者です。その森下先生が、現代医学をこのように笑い飛ばされたのです。

「患者が勝手に治るなんてことを、教えてごらん。医者も薬屋も、おまんまの食い上げだ」

つまり、医療利権と製薬利権が、近代医学教育まで支配しているからです。支配してきたのはロックフェラー財閥です。さらに、ロスチャイルド財閥も

同じ。

### ●病気の治し方も、原因もまった教えない！

そもそも、近代以降の地球を支配してきたのは、その 2 大財閥なのです。彼らは、教育（狂育）でだけではなく。メディアも完全支配しています。だから人類には、その実態は永遠に伝わらないのです。これを人類の”家畜化“計画といえます。

私が尊敬する安保徹博士（元、新潟大学医学部教授）にお伺いしました。

「大学医学部で、患者の治し方は、いつ習うのですか？」

先生は、はっきり答えました。

「大学医学部で、病気の治し方なんか教えないよ」

びっくりしました。それでは、いつ“治し方”を学ぶのか、尋ねると。

「医者になると、ガイドライン（指示書）という便利なものがあるんだよ」

これは、厚労省、医者、業者（製薬会社）の三者で作成するのがタテマエだが、実際は製薬メーカーが作って、薬漬け医療を、全国の医師に“指示”している。なにしろ、作成にかかわった医師（教授ら）の9割がメーカーからお金（ワイロ）を受け取っているのです。



もう一人、尊敬する医師、鶴見隆史医師から伺った話。

「医学部時代に、患者の病気について、教授に質問した。この病気の原因はなんですか？」

すると、教授はカンカンになって怒った。

「原因なんて、どうでもいい！ 処置だけすればいいんだ！」

鶴見先生は、医学部で病気の原因を知ろうとすると激しく叱られることを“学んだ”のです。

著名な近藤誠先生（元慶応大学医学部）に尋ねました。

「抗ガン剤で、なぜ多くの患者が殺されるのか？」

「世界にはガン産業というのがあります。ガンで儲ける業界です。その中心が国家なのです」

#### ●最終目的は人口削減……大量殺戮と大量収奪

近代医学は、医学ではありません。それはロックフェラーなど巨大資本と、帝国主義国家と、医療アカデミズム利権の三者が合体した国際医療マフィアによって牛耳られた地球規模の“殺人ビジネス”だったのです。それは、今も変わりません。だから、病院の門前に並ぶ患者たちは、まさにイケニエの羊たちと、なんら変わりません。

“かれら”の最終目的は、人類の人口削減です。

米国オバマ前大統領も、“かれら”の僕（しもべ）の一人、つまり召使です。その大統領補佐官、ジョン・P・ホルドレンは、こう断言しています。

「地球の適正人口は、10 億人である。60 億人は、強制避妊などで“削減”するべきだ。」

1972 年、ブラジル、地球環境サミットで採択された国連“アジェンダ 21”には、やはり「人口削減」が掲げられています。それは、やはり 60 億人の処分なのです。

その人口処分のため、存在するのが現代医療なのです。一方で大量殺戮して、一方で大量収奪する。これが現代の正体です。その戦慄の現実に気付いてください。

### ●「新医学宣言」で、新しい未来をつくろう

私の著書『血液の闇』（三五館）さらに、『病院で殺される』（同）。『ワクチンの罠』（イーストプレス）など、一読いただければ、その理由は詳しく書いています。

人類、大量殺戮の“装置”現代医療を、これ以上放置してはいけません。だから、私たちは「新医学宣言」を呼び掛けています。

私たちは、子どもや、孫たちと、健やかに生き延びるためにも、このような詐欺と殺人にまみれた医療という名の大量殺戮の存在を許しては成りません。

2015年3月には、多くの人々が一堂に会する大シンポジウムを企画しています。一人でも多くのひとたちに、集まっていたきたい。一人でも多くのひとたちに、賛同してい欲しいのです。

未来は、私たち、ひとりひとりが創るものなのです……。

(了)

「船瀬俊介メルマガ ホット・ジャーナル」から引用させて頂きました。

これまでも記載してきましたが、もう一度記載します。

DR.RATH HEALTH FOUNDATION の「製薬業界は一般大衆を欺いている」

<http://www4.dr-rath-foundation.org/japan/chemnitzprogramme/chemnitz08.html>



” 製薬業界は私達の社会をコントロールし続けます。製薬業界の求めるところは医学研究をコントロールし、医療従事者をこの製薬業界に依存させることです。この権力を確実に手放さずに済むよう、製薬企業は立法機関およびメディアをうまく操っています。全メディアを通じた大規模な宣伝キャンペーンでは、医薬品の PR および宣伝部門によって、製薬業界の真実を隠そうと煙幕が張られています。

製薬企業は、ルイ・パストゥール、ロバート・コッホ等の医学上のパイオニアと重ね合わせて自社のイメージを描こうとしています。彼らは人道主義に基づいて疾病の根絶を目指していると主張しています。しかしながら、真実はまっ

たくその逆です。つまり、製薬業界は、製薬市場拡大の基盤として疾病を存続させ続けることが目的なのです。コーデックス・カルテルは、意図的な疾病の根絶妨害をその目的としています。したがって、製薬業界は人類救済の伝統にもとづいてではなく、自らの利益を維持するために無数の人間を犠牲にする組織的犯罪者のグループである IG ファルベン社の伝統に基づいて運営されているのです。”

現在の頭痛学会を主導される方々は、当初からトリプタン製薬会社と二人三脚で、頭痛診療と研究を行ってきました。この点を明らかにする必要があります。

**厚労省と製薬利権の関係を知らないと日本の医療は語れません。**

図10 猛毒物質を“クスリ”にでっちあげる“悪魔の双六” (“毒殺”犠牲者は1000万人超… …?! 薬害エイズの数千倍)



厚労省と製薬利権の関係を知らないと、薬害構造が見えてきます。

日本の医療界はピラミッド構造 + 利権利益ペンタゴン（5角形）

頂点に位置する極少数達の意向に右習えで、自動的に医療政策は決まってしまう。

何十年どころか何百年前のお役人と業者の関係を見ているかの様です。。

薬事審議会審査員 30 人をカネで説得すれば、発癌剤が承認され、使いづけるしくみになっています。

日本製薬団体連合の理事長は、代々厚労省キャリアの天下りポストとなっているのだが、このリストを見れば理解しやすくなります。

#### 厚生省関係天下り先

氏名	在省時の部署	天下り先
伊藤和洋	製薬課審査課長補佐	田辺製薬
喜谷市郎右衛門	薬事監視管理室	中外製薬
平瀬整爾	製薬課課長	藤沢薬品
水野達夫	製薬課課長	山之内製薬
湯島実	製薬課課長補佐	エスエス製薬
長谷川栄三	企業課輸入係長	大日本製薬
小玉知己	細菌製剤課課長補佐	ミドリ十字
蔭山修次	薬事課課長補佐	第一製薬
小幡昌利	企業課課長補佐	大日本製薬
大野邦一郎	薬事課課長補佐	日本ケミファ
伊藤西一	麻薬第2課長	日本メルク万有



小高愛親	食品化学課長	エスエス製薬
滝沢信夫	大臣官房事務官	味の素
中野正剛	企業課課長補佐	協和発酵
石井律三	大臣官房事務官	中滝製薬
庄子敏彦	麻薬取締官	田辺製薬
佐藤大正	麻薬第2課長	興和
坂上米次	薬事専門官	味の素
松下廉蔵	薬務局長	ミドリ十字
今村泰一	薬務局	ミドリ十字
山崎圭	薬務局長	バイエル薬品
富安一夫	薬務局	ミドリ十字
中野徹雄	薬務局長	日本ベーリンガーインゲルハイム
代田久米雄	薬務担当審議官	日本ベーリンガーインゲルハイム
平林敏彦	薬務局生物製剤課	カッタージャノ “ン
安田純一	国立予防衛生研	日本臓器製薬
梅本純正	大臣官房事務次官	武田薬品

これが実態

厚労省在籍中は製薬会社に有利なように、コレステロール値、最高血圧値やメタボ基準を設けることにより、必要もない薬を飲ませ我々の健康を阻害し、退職後はその製薬会社に天下っています。

ガイドライン作成にかかわった医師（教授ら）の9割がメーカーからお金を受け取っている実態は以下のようです。

## 日本医学会における利益相反

診療指針の作成にかかわった医師が  
治療薬メーカーから受けた寄付金額

(2002～04年度合計)

### ◆メタボリックシンドローム

松沢佑次・大阪大名誉教授	3億 150万円
船橋 徹・大阪大准教授(事務局) ★	
斉藤 康・千葉大教授 ★	2億7010万円
藤田敏郎・東京大教授 (オプサーバー) (高)	1億4780万円
北 徹・京都大教授	1億2565万円
中尾一和・京都大教授	1億1948万円
横野博史・岡山大教授	1億1010万円
島本和博・札幌医大教授 (高)	1億 870万円
山田信博・筑波大教授	1億 340万円
久木山清貴・山梨大教授	6205万円
清野 裕・京都大名誉教授 (02、03年度のみ)	4900万円

(高)は高血圧の指針の委員も兼任

### ◆高血圧

萩原俊男・大阪大名誉教授 ★	2億2915万円
菊池健次郎・旭川医大名誉教授	9430万円
伊藤貞嘉・東北大教授 ☆	8550万円
松本昌泰・広島大教授	8395万円
瀧下修一・琉球大教授 ★	3625万円
江藤胤尚・宮崎大名誉教授 ☆	1870万円
内山 聖・新潟大教授	880万円

★ は所属講座あての寄付金

☆ は個人と所属講座あて両方を含む

## 1位の武田は400億円超!!

医師や医療機関等に対する資金提供額ランキング

(単位:百万円)

順位	社名	総額 (A~Eの 合計)	B 学術研究助成費					B 総額	C 原稿執筆 料等	D 情報提供 関連費	E 接遇等 費用
			A 研究費開 発費等	奨学 寄附金	一般 寄附金	学会等 寄附金	学会等 共催費				
1	武田薬品工業	40,048	26,524	2,100	200	100	300	2,800	1,556	8,382	786
2	第一三共	36,631	22,794	2,230	492	136	385	3,243	1,746	8,031	818
3	ファイザー	23,996	11,686	1,362	78	112	365	2,055	1,106	8,814	335
4	ノバルティス ファーマ	23,668	8,976	1,388	422	106	225	2,141	1,558	9,911	1,082
5	MSD	20,848	7,241	1,886	998	108	670	3,664	1,178	8,600	165
6	田辺三菱製薬	20,399	10,289	2,020	238	105	223	2,585	1,294	5,648	583
7	大塚製薬	19,959	11,165	1,146	204	70	355	1,775	1,223	5,367	430
8	アステラス製薬	19,334	7,792	1,894	175	134	447	2,650	1,028	7,185	679
9	エーザイ	18,759	8,278	1,162	142	113	514	1,931	1,197	7,037	316
10	中外製薬	18,114	8,095	2,151	1,198	125	376	3,850	990	5,113	67
11	日本イーライリリー	16,330	9,862	338	130	78	0	546	632	4,889	447
12	日本ベーリンガー インゲルハイム	15,814	8,158	1,110	459	43	153	1,765	842	4,711	338
13	グラクソ・スミスクライン	12,691	5,605	943	163	73	224	1,403	943	4,622	118
14	大日本住友製薬	12,341	5,616	1,384	351	70	364	2,169	706	3,592	259
15	協和発酵キリン	11,497	4,351	930	394	72	155	1,550	675	4,250	670
16	小野薬品工業	11,430	5,416	495	20	69	112	697	866	4,269	182
17	塩野義製薬	10,283	6,264	1,016	18	64	140	1,238	480	2,204	98
18	サノフィ	9,882	3,711	856	264	52	270	1,441	956	3,525	249
19	アストラゼネカ	9,825	5,820	577	357	88	126	1,147	590	2,264	5
20	ヤンセンファーマ	9,294	6,182	255	66	17	154	493	423	1,893	302
21	大鵬薬品工業	8,876	4,559	996	286	57	150	1,490	535	2,075	218
22	バイエル薬品	8,872	4,504	183	210	49	320	762	560	2,803	243
23	旭化成ファーマ	5,536	2,798	488	46	50	138	722	434	1,335	247
24	持田製薬	5,277	2,406	382	344	20	99	846	423	1,504	98
25	久光製薬	4,529	2,014	40	126	5	111	282	175	1,902	155
26	大正製薬	4,512	3,893	322	26	39	201	588	23	8	1
27	鳥居薬品	4,219	2,919	449	15	14	49	527	135	524	115
28	キッセイ薬品工業	3,668	1,839	295	39	17	70	421	236	1,092	80
29	プリストル・マイヤーズ	3,548	1,407	883	60	33	57	1,033	293	714	101
30	ヤクルト本社	3,255	1,809	479	95	20	79	674	172	575	25
49社合計		441,074	226,956	31,513	7,896	2,270	7,558	49,475	24,564	129,854	10,270

\*日本製薬工業協会加盟70社のうち、9月17日までに資金提供額を公表した49社を集計。各社の資金提供額は2012年度決算期

## 2013年度に製薬企業から3千万円以上の副収入を得た医師

医師名 (専門分野)所属 合計 うち講演料 上位3社 万円以下は切り捨て

